

## 国際大会調査報告書

### IFSC クライミングワールドカップ B&L コンバインドいわて盛岡

作成:独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部 国際戦略課

協力:岩手県、盛岡市、西条市、IFSC、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)

本レポートは、日本スポーツ振興センター(JSC)が、10月20日～22日に行われた「IFSC クライミングワールドカップ B&L コンバインドいわて盛岡」の視察及び自治体関係者などからのヒヤリング情報に基づき作成したものである。

#### KEYWORDS

- 既存のスポーツ施設を活用した大会実施
- スポーツを通じた地域活性化
- 持続可能な大会運営
- アーバンスポーツ推進戦略の成功事例
- 自治体連携
- 東京2020レガシーを活用した国際交流の推進

東京2020オリンピックで追加種目として採用されたスポーツクライミング、3x3 バスケットボール、BMX フリースタイル、スケートボード、パリ2024オリンピックから採用されるブレイキンなどのアーバンスポーツが、近年、世界中から注目されている。

山がちな国土を生かし、登山やロッククライミングが盛んな国の一つである日本でも、スポーツクライミングに対する関心は年々高まっている。

管轄する日本山岳スポーツクライミング協会(JMSCA)によると、愛好者人口は60万人に上り、高さ4～5mの壁を持つボルダリングジムは過去10年間で約5倍増加。全国に500軒前後あるとされる。こうした背景から、岩手県盛岡市、愛媛県西条市、鳥取県倉吉市など、もともと登山やクライミングの地域資源を有する地域が、スポーツクライミングを取り入れた、地域認知度向上、交流、経済活性化に取り組んでいる。

岩手県盛岡市では、2007年に設置されたクライミングウォールを、国体などを機に拡充。国内大会、外国チーム合宿招致を重ね、国際大会を開催するに至った。また、施設を生かして、競技人口の増加や、タレント発掘にも注力。本大会では、地元盛岡出身の伊藤ふたば選手が出場・活躍。7位入賞した。

#### スポーツクライミングの特徴

ロッククライミングからスポーツクライミングへ

「ロッククライミング(岩登り)」を起源とするスポーツクライミングは、自然の中でのクライミングに細かいルールを設定し、クライミングウォールでも行えるようにすることでスポーツ性を強調した競技。初めて国際規模の正式大会が行われたのは1989年のワールドカップ、世界選手権が始まったのは1991年と、比較的新しいスポーツ。2018年から「リード」、「ボルダリング」、「スピード」の3種目を掛け合わせ、順位を決める現在の形式になった。東京2020大会からオリンピックの種目として採用され、パリ2024大会では、追加種目として、ロサンゼルス2028大会以降は正式種目としての採用が決定している。



会場全景 © Japan Sport Council

#### 競技の特徴

スポーツクライミングはスピード、リード、ボルダリング、の3種目から構成される。パリ2024大会では、スピード種目と、複合種目(ボルダリング&リード)が実施されることが決定している。

1. スピード: 高さ10mまたは15mの世界共通のコースを登るスピードを競う。1度でもフライングすると失格。
2. リード: 高さ12m以上の壁に試合毎に設定される最大60手程度のコースを、初見で6分の制限時間内にどこまで登れるかを競う。安全のために支点に命綱をかけながら登る。挑戦は1回のみ。
3. ボルダリング: 高さ5m以下の壁に試合毎に設定される最大12手程度の複数のコースを、初見で制限時間内(予選5分、決勝4分)にどこまで登れるかを競う。制限時間内であれば何度でもチャレンジできる。

ボルダリング・リードに関しては、選手の体型・特徴によって様々なコース攻略の可能性があり、同じコースで様々な作戦や成功例が見えるのがスポーツクライミングの魅力の一つである。また、競技直前に公開されるコースのオブザベーションタイムには、選手同士が攻略法を話し合うなど、ライバルを倒すのではなく、あらゆる選手がそれぞれのベストパフォーマンスを出すことを目指し、互いに応援し、讃えあう競技スタイルが特徴。ライバル同士でも「ガンバ！」と声を掛け合うのはスポーツクライミングならではの魅力。さらに、3 種目ともに、男女同時に競技を行うことが可能であり、同じ壁に老若男女、様々な国籍のアスリートが異なるスピードや動きのタイミングで肉体の限界に挑む姿が、他のスポーツにない特徴である。



オブザベーション：登る前にコースを見て、手順などを予測する。  
ライバルも分け隔てなく攻略法を話し合う © Japan Sport Council

## IFSC クライミングワールドカップ B&L コンバインドいわて盛岡 2022

盛岡市の岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場は、クライミング 3 種目の競技場が 1 カ所にそろい、国内外の大会が開ける基準を満たす数少ない国内施設の一つ。岩手県・盛岡市では、2016 年希望郷いわて国体を皮切りに、海外チーム合宿受け入れや、国内大会開催を重ねてきた。これらの実績、とりわけ東京 2022 大会事前合宿を行ったカナダ代表チームによる高評価が、今回の国際大会開催に結びついた。日本でのワールドカップ開催は 2019 年以来 3 年ぶり。2022 年シーズンの最終戦となる本大会は、パリ 2024 大会で採用される種目形式「コンバインド(ボルダリング&リード)種目」が実施される初のワールドカップでもある。

## 「IFSC クライミングワールドカップ B&L コンバインドいわて盛岡 2022」開催概要

主催：国際スポーツクライミング連盟 (IFSC)

共催：岩手県、盛岡市、岩手県山岳・スポーツクライミング協会

会場：岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場(岩手県盛岡市みたけ 1-10-1)

日程：2022 年 10 月 20 日(木)～22 日(土)

種目：コンバインド競技(ボルダリングとリードの 2 種複合)

大会ウェブサイト：

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/sports/1056982/index.html>

競技スケジュール：

10 月 20 日(木) 9 時 00 分～16 時 30 分 男女予選

10 月 21 日(金) 9 時 00 分～13 時 30 分 男女準決勝

18 時 00 分～21 時 30 分 男子決勝／表彰式

10 月 22 日(土) 15 時 00 分～18 時 00 分 女子決勝／表彰式

競技方法：

[予選] 男女合計 67 選手

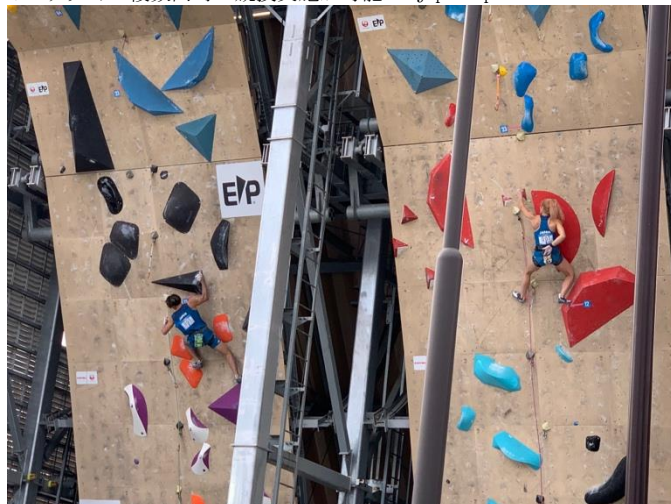
[準決勝] 男女合計 40 選手

[決勝] 男女合計 16 選手

出場国：日本、アメリカ、韓国、スロベニア、中国、フランス、ベルギー、スイス、ドイツ、イスラエル、カナダ、台湾、ブラジル、モンゴル、イギリス、スウェーデン、シンガポール、香港、インドネシア、イラン、ノルウェー



ボルダリング：複数同時の競技実施が可能 © Japan Sport Council



リード：男女同時に競技を実施することが可能 © Japan Sport Council

## スポーツを通じた街づくり:スポーツクライミングのまち、岩手・盛岡

### 地域活性化に向けたスポーツ施設の有効活用事例

山が多く、山岳競技が盛んな岩手県では、スポーツ振興の切り口としてクライミングに注目。県では、「岩手・盛岡」を、クライミング競技のブランドとし、競技人口の拡大や、大会合宿の積極な誘致を進めている。

設備面では、2007年に設置したボルダリング競技場を、2016年の国体を契機にクライミング競技場へと拡充し、整備を進めてきた。この設備を活用し、2017年カナダ代表チームワールドカップボルダリング八王子2017事前合宿、2018年コンバインド・ジャパンカップ、2020年リードジャパンカップ、2021年コンバインドジャパンカップ、2021年カナダ代表チーム東京2020事前合宿、そして今回のワールドカップの誘致へとつなげた。

設備は、競技の裾野拡大にも一役買っている。講習を受けることを条件に一般にも開放されており、2021年度には、のべ1万8千人の利用があった。また、タレント発掘の県事業「いわてスーパーキッズ」プログラムでも、対象競技にクライミングが採用されている。



クライミング施設は市民にも開放されている © Japan Sport Council

### 人材資源の活用

岩手県では、今年度開催される本大会、日本スポーツマスターズ2022岩手大会、いわて八幡白銀国体の3大会のボランティアを「いわてスポーツボランティア」として合同で募集し、それぞれの大会が開催される自治体と密に連携したボランティアプラットフォームを構築した。このプログラムには幅広い年齢層の約130名が参加。ボランティア研修会では、「ボランティアがあつてこそその大会運営」とボランティア参加者を鼓舞する内容の研修を行い、自覚・やりがいを高める工夫があった。ボランティア参加者には、2019年ラグビーワールドカップや東京2020オリパラ大会のボランティア経験者も多数含まれ、ボランティア参加がレガシーとして引き継がれている。

## 大会の運営

### 自治体間の連携・知見の共有

まだ新しい競技ということもあり、課題やグッドプラクティスを共有しながら、今後の相互の大会運営に生かすための連携を自治体間で行っているのが、日本におけるスポーツクライミングの特徴である。

本大会では、同様の公式大会が開ける基準を満たすクライミング施設を持つ愛媛県西条市の担当者がボランティアスタッフとして大会運営に参加。西条市で11月に開かれるジャパンカップの運営に役立てるとのことだ。

また、日本山岳・スポーツクライミング協会は、国際大会運営の知見の共有のため、オブザーバープログラムを企画。愛知・名古屋アジア大会組織委員会の関係者や愛媛県西条市の自治体職員等が参加し、競技場やバックステージをガイド付きで視察し、ノウハウを学んでいた。



市民ボランティアの活躍 © 岩手県

### 自治体とNF間の連携・知見の共有

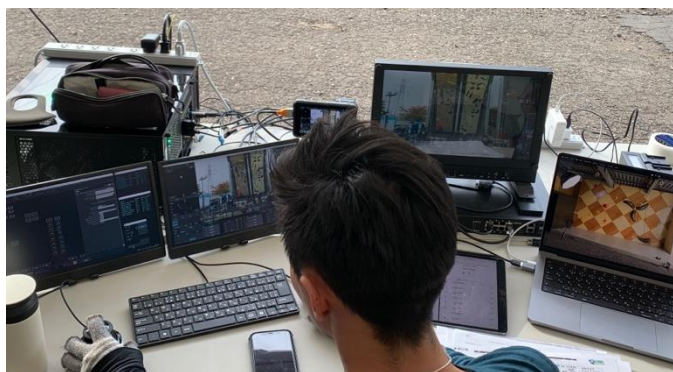
今年8月、岩手県、盛岡市及び日本山岳・スポーツクライミング協会が県内におけるスポーツクライミングの普及・振興を図るため、岩手県、盛岡市及び公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会の三者間で連携協定を締結した。連携内容は以下のとおり。

| 連携項目                             | 具体的内容                  |
|----------------------------------|------------------------|
| 岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場の利活用に関する事   | ・継続した国内大会及び国際大会の誘致・開催  |
|                                  | ・日本代表選手合宿の実施           |
|                                  | ・施設の充実にに向けたアドバイス       |
| スポーツクライミング競技における選手の発掘、育成、強化に関する事 | ・代表合宿実施時に県内選手による見学会の実施 |
|                                  | ・トップコーチによる県内選手への強化指導   |
|                                  | ・普及育成に向けたイベントの実施       |
| スポーツクライミング競技を通じた、生涯スポーツの振興に関する事  | ・地元スタッフへの大会運営に係るノウハウ指導 |
|                                  | ・トップ選手と県民との交流          |

## ファンエンゲージメント

実況アナウンスや音楽に合わせた、手の届くような近い距離での観戦や、芝生広場にシートを広げたり持参のアウトドア椅子に座ったりして、ピクニックのようなカジュアルな雰囲気での観戦スタイルが、アーバンスポーツならではの、同一の観戦エリアから全ての競技が観戦できることも、効率的運営に一役買っていた。

また、AR 技術を使い、3D 映像による壁の傾斜の視覚的な解説を取り入れ、リアルタイムで競技情報を大型スクリーンに映し出すことで、よりわかりやすく競技が楽しめる工夫がなされていた。ルールや競技進行のわかりづらさを解消しつつ、実際の映像に馴染み観戦を妨げない演出で、今後は、ライブ配信質向上のほか、映像で大会をみた視聴者が会場へ足を運びたいくなるような演出の検討も行なっているという。



AR 技術を取り入れた映像演出 @Japan Sport Council

会場では、様々なポジションでボランティアスタッフが活躍し、入場でのチケット確認や INTERPRETER と記した A4 大の看板を胸につけた通訳のボランティアは困った時にはすぐに声がかけられるよう工夫されていた。また、どのポジションからでも全体を見渡することができる会場なので、活動しながら競技の雰囲気が味わえる。このことが、ボランティアのモチベーションにも繋がり、観客や大会関係者を問わず、会場全体が活気に満ちた雰囲気となっていた。

また、会場の入り口には、岩手県や盛岡市のご当地グルメのフードトラックが並び、周囲に飲食店の少ない郊外の会場でも、地元の味が楽しめるしつらえとなっていた。



市民ボランティア(通訳)の活躍  
@岩手県



ご当地グルメでのおもてなし @岩手県

岩手県・盛岡市は今後も魅力あふれる地域資源を活用し、スポーツを通じた街づくりを行い、経済・地域の活性化につなげることを目指している。

\* 岩手県、盛岡市、西条市は JAPAN SPORT NETWORK 参加自治体です。 <https://www.jpnsport.go.jp/jsn/index.html>

参照:

IFSC - CLIMBING WORLD CUP (B&L) - MORIOKA, IWATE (JPN) 2022

<https://www.ifsc-climbing.org/index.php/component/ifa/?view=event&WetId=1234>

IFSC 国際スポーツクライミング連盟

<https://www.ifsc-climbing.org/>

日本山岳・スポーツクライミング協会 (JMSCA)

<https://www.jma-sangaku.or.jp/>

岩手県スポーツ関連の取り組み

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/sports/index.html>

盛岡市スポーツ関連の取り組み

<https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/sports/index.html>

岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場

<https://www.iwate-sc.jp/facilities/%E5%B2%A9%E6%89%8B%E7%9C%8C%E5%96%B6%E9%81%8B%E5%8B%95%E5%85%AC%E5%9C%92%E3%80%80%E7%99%BB%E3%81%AF%E3%82%93%E7%AB%B6%E6%8A%80%E5%A0%B4>